

令和3年度 事業報告 総括

近年の決算報告では収支が危うい状況が続き、賞与の支給月数を減らす等の対策を講じたことを踏まえて、事業計画では経営状況の改善の目標を大きく掲げました。その取り組みとして、さつきハウスの定員変更や入所施設での週末余暇活動の実施、あらたな加算の算定等を行い、収支状況は大幅に改善し目標を達成することができました。ただ施設・事業所単位で見ると武子希望の家を中心に武子地区が改善傾向に向かうなか、日向希望の家は収支が赤字になり悪化傾向となっている課題が生じています。

令和2年に日本へ上陸した新型コロナウイルスは引き続き流行が続き、12月に感染者が減少し終息するかに見えたのですが、年明け一気に感染者が再拡大し、鹿沼市内の保育園や学校での感染報告が相次ぎ、遠い世界の話ではないと誰もが感じていた矢先、いよいよ利用者への感染が確認されました。施設内の感染拡大を防ぐため、感染者の入院等の対応を期待したのですが、施設内での療養を求められ、支援員が連日泊まり込みで看護することになり、支援員本人だけでなく、その家族にも大きな負担を強いてしまい心苦しい事態になってしまいました。ただ想定外の支援にも支援員は毅然と対応し、大変感謝しています。敷地内にはめぐみや井深記念館という施設と別の建物があったおかげで感染者を隔離支援することができたのも幸いでした。そういった隔離支援に加え食堂を封鎖して使い捨て弁当で食事を提供し、初めてコロナ感染による通所事業所の休業を判断する等して利用者にも不便を感じさせながらも感染拡大を封じ込めようと対策したのですが、終息するかと期待すると数日後には発熱者が出てしまい、結果施設内の収束に長い時間を要することになり、目に見えないウィルス感染防止と潜伏期間対策への難しさを痛感しました。

コロナ禍にあるなか、作業収入はそれほど大きな落ち込みはなく、特に昨年度大幅に売り上げが減少したJSP班が市場の回復に伴い生産数が一気に増えたことが要因になりました。事業所を休業した際にはJSPモーディングの社員が応援に駆け付け、危機をなんとか乗り越えることができました。

前述のように経営状況の改善の目標を達成できたこともあり、経営状況改善に貢献した職員全員に一時金、コロナ感染者を看護した支援員に慰労金、そしてJSP班の利用者に特別工賃を支給しました。

希望の家を40年近く利用されていた入所利用者3名が亡くなられたことは、利用者や職員にとって非常に悲しい出来事でした。体調の急変等により救急搬送される方が増えたことも感じるので、体調悪化や事故を未然に防ぐよう取り組んでいきます。

人材確保については、順調に進めたと言いつつも難しい面もありますが、鹿沼市やまびこ荘の運営を引き継げるよう従来勤務していた職員の半数以上が転籍に応じ、法的配置基準を満たせる職員数は確保できました。その他、やまびこ荘の運営引継ぎに向けて手続きを進め、特に問題が生じることなく準備を完了することができました。

新規利用者の取り込みや研修の積極的な参加については、コロナ禍の影響で交流の制限や研修のリモート化の流れ等もあり、依然従来のような動きができず、目標とした成果を得ることができませんでした。